



草と草の根の連帯をあらわす  
草の家のシンボルマーク

〒780-0861 高知市升形 9-11 Tel 088-875-1275 Fax 088-821-0586  
E-mail: GRH@ma1.seikyounet.jp http://ha1.seikyounet.jp/home/Shigeo.Nishimori

## いつでも、どこへでも出撃する米軍と自衛隊

— 10-30-30目標 —

### 神風が吹いた？

突然、米イージス駆逐艦「ラッセル」が宿毛に入港した。やってくるのも、去るのも突然だった。なんだか信じられないが、出航した理由がふるっている。宿毛湾内が荒れて、係留している12本のロープのうち1本が切れて、もう一本が切れそうだったとのこと。

「あんたは軍艦なんだよ、たっすいがはイカン！」と言いたくなった。でも、ひょっとしたら「神風が吹いたのか？」

### 土佐沖とリマ海域が狙い？

高知には、米軍基地も自衛隊もないと思いがちだが・・・！

土佐沖には、「リマ」と言う広大な米軍演習基地がある。山口県岩国市の米海兵隊岩国航空基地から戦闘攻撃機ホーネットがやってきている。リマ海域一帯は、カツオやマグロの好漁場である。関係する漁業者は、一貫してリマ海域の撤退を要求しているが、防衛施設庁は「防衛施設なので撤廃不可能」との回答である。今回のイージス騒動は、このリマ海域と深い関係があ

りそうである。

### 膨大な税金を支出する「米軍再編」: 3兆円 + 1兆円以上

米軍再編の真の狙いは、ラムズフェルド国防長官が発表した戦略プラン「10-30-30目標」である。「世界のいかなる国へも10日以内に米軍を展開し、30日以内に敵を撃破。次の30日以内に別の場所で戦闘可能な状態に入る」ことを指す。

米軍岩国基地も同様の米軍再編であり、空母艦載機が移転する予定になっている。となると、四国・高知県・リマ海域が今以上に拡大された訓練地域になるのは目に見えている。しかもその再編経費のほとんどを日本が支出する事を含



イージス艦寄港反対行動(5月24日、宿毛)

めて、政府は「閣議決定(5月30日)」した。

米側責任者は明言している。

「在日米軍再編計画を実施するために必要な日本側の経費は約3兆円」と・・・！その上に米軍のグアム移転には「7千億円」。意味不明で腹立たしい

「思いやり予算」を含めれば、膨大な税金が米軍のために支出されているのである。3兆円と言えば小泉自民党政府が、増税・医療費の負担増など国民生活を切り刻んで削ってきた金額と同額に近い。

### 怒れ・いかれ・抵抗しよう。日米安保条約の廃棄を！

えっ！それじゃあ、私たち国民が米軍再編の経費を出すことなの…？

そうなのです。民間委託や民営化、福祉や年金

や医療や教育のすべてを低下させ・切り捨てているうちに、国民生活は「より格差のある社会に」なっている。本当の「小さな政府」を作るのには、「自衛隊・米軍基地」をなくすしかないのです。国民生活に直撃を与えている根幹は「日米安保条約」なのだ。米軍も自衛隊も私たちを守ってくれるはずもなく、私たちの生活を破壊する根源。生活向上と平和で豊かな国にするために、あらゆる生活場面で発言し行動し、怒り・抵抗しよう…！

事務局次長 太田紘志

---

## “平和に生きる” - Peace alive -

中内愛

去年の今頃のわたしには、今の自分は想像できなかっただろうと思う。

ここ半年で、世界の見え方が以前とは明らかに違う。色を変えたというよりも、鮮やかに色づいてきた。考え方も行動も、前よりずっと外向きになったと思う。

以前のわたしは、活動熱心で勉強家の母親とは反対に、立派な世界の傍観者だった。「分かっているってば」と、深く関わることを避け、ブラウン管の前で知った顔をしていた。悲しいことに今日の日本では、知らないでも、考えないでも生きていくことはできるし、多くの人は「自分が知らない」ということを知らない。

草の家に入出入りしていると、自然と社会に溢れる多くの問題や、戦争のこと、平和のことに触れることができた。そして、そういう問題について話し合える仲間との出会いが、自分の中の変化と一番大きく結びついていると思う。

戦争の歴史を生身で生きてきた人の話に耳を傾けると、目を背けられない事実を知ったとき、感じたことを言葉にして相手に伝えるとき、お酒を片手に他愛ない話をするとき。

知らないふりをして、客観的に生きていくことが、あまりに不自然なことに思えてきて、「自分にも何かできるだろうか」と思えるようになった。それは、知りたいと望むことや、そこに集う人達に会いたいと思うことと等しい。

4月30日に開催したPeace aliveは、まさに去年の自分には想像できなかったこと。それから、「自分にも何かできるだろうか」の答え探しでもあった。結局は、自分ができるところをやるしかなかったけど。

当日、それからそれまでの道のりは、わたしの中に「しんどいけれど楽しい」という不思議な感覚を残している。

答えは、これから先の自分の人生の中で見つけられる、ような気がしている…。

世界の見え方が変わってきてから半年、今自分が生きているこの同じ地上で起きたこと、起きていること、起きるかもしれないことに真剣に向き合いたい気持ちと、「知りたい、考えていきたい」そういう気持ちで、自分の欠けていた隙間が一つ埋まった気がする。